

## 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 原山台中 学校  
校長 三戸口 聖子

中学校区におけるめざす子ども像

**愛：「人とのつながりを大切にできる子ども」**      **学：「自ら考え、学び続けることのできる子ども」**      **健：「自分のよさを発揮することのできる子ども」**

令和7年度 重点目標

～新しい時代に向かってじりつ（自律・自立）できる子どもの育成 誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

- ① 学習指導要領の趣旨や内容を踏まえた学習指導の充実。子どもたちが大人になるための実力をつけるため各教科における学力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の向上を図る。
- ② 相手を思いやることのできる心を育てる特別活動、総合、道徳授業の充実。様々な人の生き方や多様な考え方にふれる授業等を通して、人間関係を築く力やお互いの人権を守ること等考える学習の工夫。
- ③ 探究的な学びの推進。各教科との関連、ICTを活用した対話的、協働的な学びにより、主体的に学びに向かう態度を育てる。

「確かな学び」の現状

令和6年度大阪府中学校チャレンジテストの結果において、全学年府平均にほぼ等しい。またチャレンジテストアンケート調査でも、「家で自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している」の項目は肯定的な回答は約半数である。しかし、授業では大半の生徒が前向きに学びに向かい、学校自己診断アンケートでも「学習意欲がある」という項目が74%と大幅に改善している。(前年50%)、そして80%の生徒が「授業を大切に学んでいる」と回答している。「自ら考え、学び続けることのできる子ども」を育成するために、社会生活に繋がる探究的な学びにむかう授業改善を進め、新しい時代に向けて、じりつ（自律・自立）できる子どもの育成をめざす。

「豊かな心・健やかな体」の現状

令和6年度「学校自己診断アンケート」で90%の生徒が「時間を守って行動している」「身だしなみを整えて学校生活を送っている」等ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立している。また、90%の生徒が高い自己肯定感をもっており落ちついた学校生活をおくっている。しかし、不登校生徒の割合は高く減少させることが難しいことが課題である。対話的、協働的に考えさせる場面の充実等、課題解決に向けて自ら律し自己調整を促す教育を進め、自分の思いを考えまとめ表現することができる等、自分らしく心と体を調整する力を身につけた心身ともに健康な子どもの育成をめざす。

| 大項目  | 中項目        | 具体目標   | 具体的な取組<br>(●重点とする取組、★中学校区での取組)                                 | 判断基準<br>(評価のものさし)  | 評価方法        | 評価時期 | 進捗確認<br>(12月) | 達成状況 (年度末) |         |   |  |
|--|------------|--|--|--|-------------|------|---------------|------------|---------|---|--|
|  |            |  |  |  |             |      |               | 自己評価       | 学校関係者評価 |   |  |
| 確かな学び(学)   | 授業改善       | ・探究的な学びにむけての授業改善と研修。楽しさから生まれる深い学びができる授業をめざす。                                       | ★小中一貫教育の推進をめざした小中連携による授業づくり研修を実施する。                            | 校内研修に関する肯定的な回答 80%以上   | 職員アンケート     | 年度末  | A             | A          | A       | 原山校区の1小1中の利点を生かした取り組みや小中連携を積極的に行っており、学習意欲につながっている。今後も一層の推進を図ることを期待する。                               |  |
|  |            |  | ●各教科のつながりを考えた探究的な学びのスタイルを確立させる。                                | 学ぶ意欲が向上したことに対する肯定的回答80%以上                                    | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          |         |   |  |
|  | 学習のリズム     | ・子どもの学習意欲をそそ一人1台パソコンの活用。個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。                                      | ●一人1台パソコンを活用して家庭学習課題に取り組む等、子どもの主体的な学びを引き出す工夫を行う。               | 主体的に学びに向かう態度を図るアンケートに対する肯定的回答80%以上                           | 学校自己診断アンケート | 年度末  | B             | B          | B       | B   | 一人1台のパソコンの活用が授業の中で上手に行われている。チーム担任制は多くの生徒にとって良い方向に働いている。今後もその強みを生かして指導にあたってほしい。 |
|  |            |  | ★一人1台パソコン活用による実践研修を実施し、小中間や各教科間の連携をはかる。                        |  |             |      |               |            |         |   |  |
| 豊かな心(愛)  | 心のリズム      | ・「いのち」を考える人権総合学習の取り組みから自己有用感や相手を思いやることのできる心を育てる教育の充実を図る。                           | ●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくり。お互いを認め合える場面、自己存在感を感じる活動の工夫を行う。          | 「クラスでは自分の意見が言える場面がある」に対する肯定的回答 90%以上                         | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          | A       | 「いのちの授業」、「防災学習」等の実施で、人権を尊重する気持ちやいのちの大切さを学び、心の成長につながっている。生徒が自助・共助の重要性を理解できるように「防災学習」を継続してほしい。        |  |
|  |            |  | ●「いのちの授業」「防災学習」等を実施することにより、自分も他者も大切にすることについて考える取り組みを行う。        | 「人権を尊重する事、いのちの大切さ等について学んでいる」に対する肯定的回答90%以上                   | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          |         |   |  |
|  | 生活のリズム     | ・心身ともに健康であるとともに安全で安心した学校生活を送ることができるといじめを許さない、不登校生を作らない学年・学級活動や生徒会活動、総合的な学習の充実をはかる。 | ●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくりからお互いを認め合える場面が見える活動、いじめを見逃さない教室環境づくりを行う。 | 「クラスでは自分を表現できる場面がある」「困ったときに気軽に相談できる先生や友だちがいる」に対する肯定的回答が85%以上 | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          | A       | 生徒が主体となる行事があり、周りや協力しあえる場面が作れている。先生へ相談できる環境も整えており、生徒が安心して学校に来ることができている。今後も、生徒の自発性の発露となる取り組みを継続してほしい。 |  |
| ●各学年2クラスを生かした「たてのつながり」を高める活動の充実。自己調整力を表現できる場面づくりを行う。 |            |  | 「各行事で、縦割りの取り組みや異学年と交流できてよかった」に対する肯定的回答90%以上                    | 学校自己診断アンケート  | 年度末         | A    | A             |            |         |   |  |
| 見せる学校(信)   | 発信の充実・地域連携 | ・学校の情報を正確かつ適切に発信し信頼される学校づくりを行う<br>・地域活動への参加による信頼される学校づくり。                          | ●teroruとHPと各通信による情報発信を確実にし、情報提供を行う。                            | 「ホームページやteroru等で家庭への連絡を適切に行っている」に対する肯定的回答90%以上               | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          | A       | クラブ生の地域活動への参加は心強いものがある。今後も、生徒が自主的・積極的に地域活動に参加してくれることを期待する。積極的な情報発信を継続してください。                        |  |
|  |            |  | ●原山まつり、清掃活動等の地域活動への生徒の主体的な参加を推進する。                             | 「地域の活動に積極的に参加している」肯定的回答80%以上                                 | 学校自己診断アンケート | 年度末  | A             | A          |         |   |  |

**校長より (年度末)** 探究的な学びにむけての授業改善を進めることで、子どもたちの学ぶ意欲の向上、そして主体的に学びに向かう態度に変容が認められた。また、1小1中を生かした取り組みを進めることで、小中の学びの接続部分や教科横断的な学習について、職員の意識向上が見えた。チーム担任制を始動し、多様な視点から子どもたちたちとかわかり、一人ひとりが安心して過ごすことのできる環境づくりが進んだ。これによりお互いを認め合える場面や自己を表現する場面が増え、誰一人取り残さない温もりのある教育に近づけたと考える。今後も様々な人の生き方や多様な考え方、また様々な情報を活用しながら課題解決できる場面や機会を増やし、新しい時代に向かってじりつ（自律・自立）できる子どもの育成を進める。

**学校関係者評価者から (年度末)**  
 ・アンケートの結果で2年生の評価が少し低い点が気になるが、全体的には多くの項目でパーセントが上昇しており、生徒・保護者が学校の取り組み等を共有できていると思う。  
 ・チーム担任制の長所が生かされ、信頼できる学校づくりが構築されている。授業ではタブレットの活用が工夫されており、生徒の学習意欲を高めている。  
 ・1年生から「確かな学力」の取り組みができてきている。進級するごとに学力も向上傾向にあり、探究的な学びの推進も効果がでている。